

046

## 震災の記憶をつなぐ防災検定への試み 「ひまわり防災検定」

取組主体

NPO 法人チームふくしま

従業員数

3人

想定災害

全般

実施地域

福島県

- 福島県の復興を支援する NPO 法人チームふくしまが、東日本大震災から 10 年を機に独自の検定制度「ひまわり防災検定」を創設。非常時の実践力を試す内容を含み、防災意識の普及や震災の風化防止につなげる。

### 1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

#### 東日本大震災復興支援活動として「福島ひまわり里親プロジェクト」を実施

- NPO 法人チームふくしまは、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故における風評被害等で職を失った福祉作業所で働く障がい者等を支援するため、平成 24 年 2 月に設立された。
- 同法人は設立当初より、障がい者の雇用支援や観光振興、防災や道德教育を目的として、「福島ひまわり里親プロジェクト」を運営している。本プロジェクトは、全国よりヒマワリを育てる「里親」を募集し、「里親」は、同法人が購入した日本国外産のヒマワリの種子を買い取り、育て、再び採種し、福島に種を送付する。



「福島ひまわり里親プロジェクト」の概要イメージ

- 「里親」へ送付する種子を福島県二本松市の障がい者作業所で封入し、「里親」より返送された種子は再び障がい者作業所にてリパックされることによって、障がい者の雇用支援を実現している。さらに、種子から搾油し、その一部を福島交通株式会社が運行するバスのバイオエネルギーとしても活用されており、地域活性化にも貢献している。

#### 震災の記憶をつなぎ風化を防ぐ独自の防災検定「ひまわり防災検定」

- 同法人は、東日本大震災から 10 年を機に、防災意識の普及や震災の記憶の風化防止を目指した独自の検定制度「ひまわり防災検定」を創始し、令和 4 年 3 月 11 日に正式に検定制度を開始した。
- 検定は 3 級から 1 級まであり、それぞれの級に「知る」、「気づく」、「行動する」と目標が設定されている。上位級には福島県内や被災 3 県を巡る研修も盛り込む予定である。合格者には認定証を送り、「防災アンバサダー」として活動してもらう。受検者は震災時のできごとや被災者の体験談、災害への備え等の講座やワークショップを経て試験に挑む。避難時の行動ポイント、非常時の緊急持ち出し品を問う問題等、実践力を試す内容も含めて出題される。
- 同法人は令和 3 年度を試行期間と位置づけ、山形県や愛知県、兵庫県内の高校生、福島ひまわり里親プロジェクトに参加する企業を中心に検定を実施し、約 550 名が受検した。受検者の感想や意見を反映しながら検定内容をアップデートしてきた。



「ひまわり防災検定」3 級試験での  
ワークショップの様子

**ひまわり防災検定**  
 最新の防災知識に合わせた社会のニーズに合わせた防災知識を習得できる  
 被災地の観光支援・震災の風化対策・福祉施設の活用創出 など効果的

このよな分野で活用できる検定です

- キャリア教育
- 防災教育
- 観光支援
- 危機管理教育
- 花育
- 震災の風化対策
- 福祉教育
- 環境教育

用途:  企業研修  行政  修学旅行  修学旅行で賞状を授けられます!

各級の概要

- 3級 全国**  
 中学校、大学  
 教育施設でも  
 実施可能
- 2級 福島県内**  
 小学3年級 検定  
 被災3県を走る
- 1級 福島県**  
 小学4年級として検定資格付与  
 福島の発展に貢献する検定の1つです

実施内容

講師、ワークショップ、テスト

- 福島県内の各町(プロジェクト)について
- 震災後の復興→復興への動き
- 震災への備え
- 震災時の備え(防災、防災)の重要性
- 1日ワークショップ実施(ワークショップ)
- 被災地復興の最新情報
- 大塚の先生、被災された方へ  
 復興支援の大切さを伝えます。

検定の運営団体 特定非営利活動法人チームふくしま

福島の復興を支援するプロジェクト

- 地域の復興を支援するために、復興支援の  
 活動を行う。福島県内の各町(プロジェクト)について
- 復興支援の活動は、復興支援の活動を行う。復興支援の活動は、復興支援の活動を行う。
- 復興支援の活動は、復興支援の活動を行う。復興支援の活動は、復興支援の活動を行う。

認定試験の人数 団体数  
 \*55万人以上  
 \*5,171以上の学校

学校授業計画表、認定証付賞状に授与

- 認定証付賞状(2024-2025)
- 認定証付賞状(2024-2025)
- 認定証付賞状(2024-2025)

認定証付賞状(2024-2025)



「ひまわり防災検定」の概要

2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

- 1級まで取得すると、アンバサダーとして、3級のワークショップを実施する講師になれる制度を設けている。講師としてこれまで学んだことをアウトプットすることで、知識を忘れずに維持することに加え、受験者から次の受験者へのつながりを生む循環を通じて、取組の輪を広げていくことを目指している。
- 福祉作業所の利用者である障がい者が検定の試験官を務めることで、障がい者の所得向上につながる。本取組をモデルとして、既存の他の検定においても、障がい者が試験官として活躍する場が増えることが期待される。

3 現状の課題・今後の展開等

- 1度受験し資格を取得した後の再受験につながるよう、3級から2級へ、2級から1級へと次の級を受検したいと思えるような内容の充実、認知の拡大が課題であると考えている。
- 将来的には、毎年3月11日に本取組において素晴らしい成績を出した個人、企業、団体に対して表彰する行事を開催し、受験者の1つの目標につなげ、受験意欲の増加につなげていくとしている。

4 周囲の声

- ワークシートを活用しながら、防災のために何を準備するのかを受験者同士で話し合ったことで、自分ひとりでは気づかなかった部分に気づいた。(3級試験受験者)

担当者の声

- 「ひまわり防災検定」を通じて、「知る」「気づく」「行動する」の3ステップで、受験者に防災・減災について自分事として捉えてもらいたいと考えています。たくさんの方に受験してもらい、受験者を中心に周囲へ影響を与えることで、各地域での防災意識はより高まると確信しています。また、福島に、東北にお越しになるきっかけにもしてもらえると嬉しいです。

問合せ先

NPO 法人チームふくしま 法人番号：3380005010425  
 TEL：024-563-7472 FAX：024-529-5794  
 E-Mail：info@sunflower-fukushima.com

サイト URL



動画

